

一色青海遺跡

地元説明会資料

2010年1月30日（土）

（財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
テイケイトレード株式会社

調査の経緯と経過

一色青海遺跡の発掘調査は、日光川上流流域下水道浄化センター内の施設拡充にともない、愛知県建設部下水道課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターがおこなっています。

これまで平成3～8年度に23,500㎡、さらに平成15年度には7,124㎡の調査をおこないました。今年度は平成15年度調査区のすぐ北側を、平成21年5月から平成22年3月までの予定で発掘調査しています。調査面積は5,500㎡です。

一色青海遺跡の立地と歴史的環境

一色青海遺跡は、濃尾平野の南西部、愛知県稲沢市一色青海町・儀長町・井堀野口町・平和町須ヶ谷にかけて広がる弥生時代中期から江戸時代にかけての遺跡です。稲沢市域を北東から南西に蛇行して流れる三宅川と、かつての木曾川の本流とされる日光川にはさまれた沖積低地における、旧河道の自然堤防上に立地し、標高は弥生時代の遺構確認面でおおよそ1mほどです。

一色青海遺跡の周辺には、東に野口・北出遺跡（弥生前～中期）、西に跡ノ口遺跡（弥生中～後期）・長田遺跡、南約400mに須ヶ谷遺跡（弥生前～中期）があり、おおよそ1km四方に広がる弥生前期から後期にかけての遺跡群を形成しています。さらにその周辺の遺跡としては、三宅川をはさんで東約1.5kmには堀之内花ノ木遺跡（弥生後期）、そしてその東には琵琶戸遺跡（弥生後期）があります。また、堀之内花ノ木遺跡の北には尾張国分寺（奈良時代）の塔と金堂の基壇が今も残っており、この地が古代の尾張国における政治・文化の中心地であったことをしのばせます。

これまでの調査成果

平成3年度以来、愛知県埋蔵文化財センターがおこなってきた約30,000㎡の発掘調査で、弥生中期後葉（紀元前1世紀頃）の大規模集落の全体像がほぼあきらかになってきました。北側を北西から南東に蛇行して流れる河道によって形成されたU字状の自然堤防の上に、およそ200棟の^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居、20棟を超える^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物、30基の^{ほうけいしゆうこうぼ}方形周溝墓がみつかっています。

竪穴住居は多いところで5～6回の建て替えが確認でき、最盛期には少なく見積もって40棟ほどの竪穴住居が建ち並び、200人をを超える人口を^{よう}擁していたと考えられます。

この集落の中心部とみられる平成15年度調査区（03A・B区）では、南北17.6m、東西5.1m、床面積89.8㎡（約27坪）もの大型掘立柱建物（SB017）がそびえ立っていました。この大型掘立柱建物は、同時期の建物としては東日本で最大、全国でも大阪府池上・^{いけがみ}曾根遺跡のものと並んで最大級の規模を誇ります。大型掘立柱建物の周辺には床面積が50㎡を超える大型の竪穴住居が多数みつかり、この大集落を束ねる役割の人々が住んでいたようです。

この遺跡では三重県中部から西三河にかけての、さまざまな地域の土器や石器が出土していることから、他地域の人々の往来が^{ひんぱん}頻りにあったようです。大型掘立柱建物は、この大集落を支える巨大な^{こくもつ}穀物倉庫であるとともに、はるか彼方からもその姿を望むことができるランドマーク的な役割があったと考えられます。

今回の調査成果

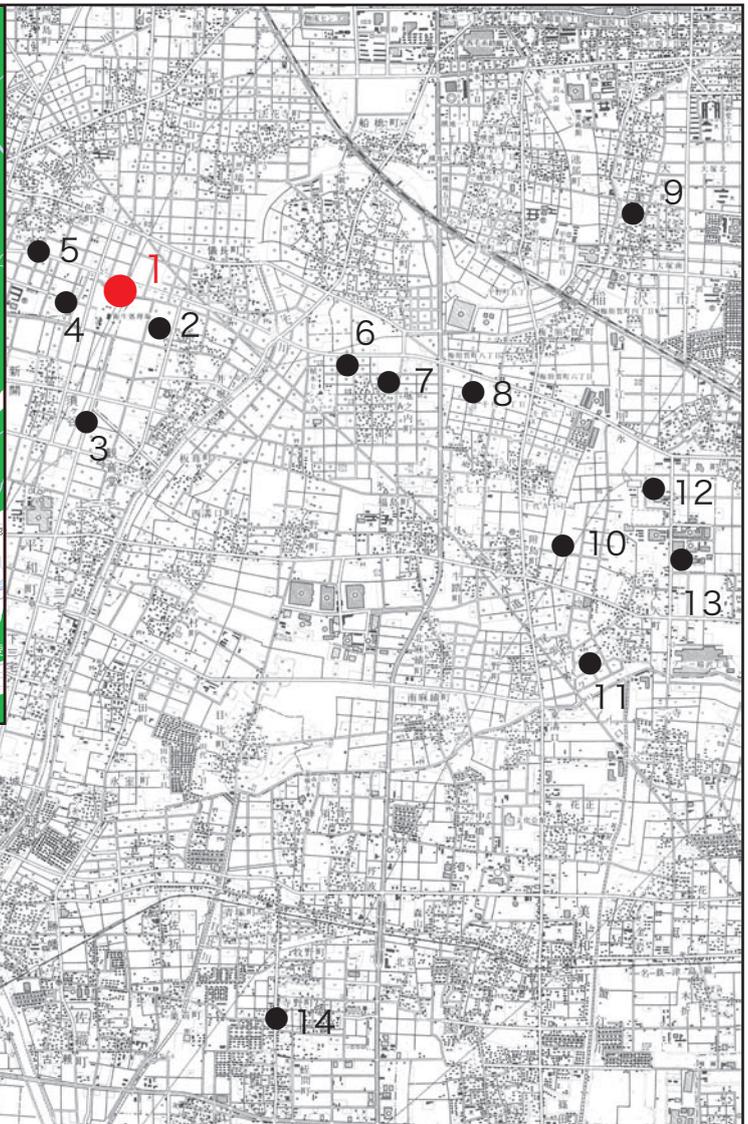
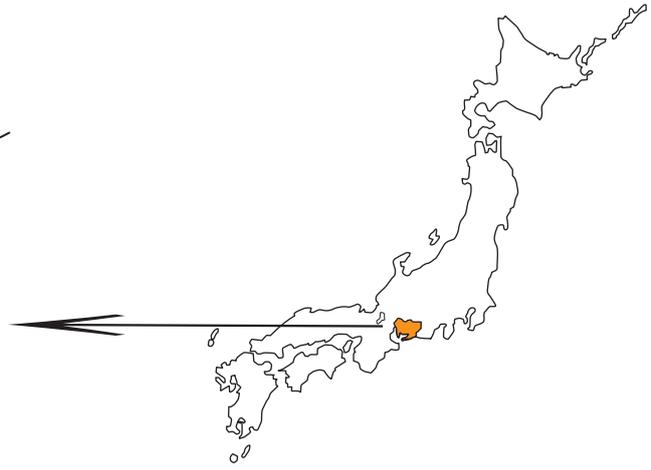
今年度の調査区（09A・B区）においても、竪穴住居50棟以上、掘立柱建物5棟以上、大溝3条など、数多くの遺構がみつかりました。

うち、09A区の竪穴住居201SIは、長辺11m、短辺7m、床面積がおよそ70㎡もある、この集落でも最大級の竪穴住居で、なかからはたくさんの土器が出土しました。

今回の調査で特に注目すべきは、集落の北側でみつかった2条の大溝（200SD・600SD）です。この大溝は、もともと集落の北側を流れていた河道（400NR）が埋まったのちに、人の手によって掘られたもので、それぞれ幅が5m以上、深さも1.5m以上あります。河道400NRと大溝200SD・600SDのいずれから、弥生中期後葉の土器が出土していることから、この集落が存続していた百数十年ほどの間に、まず川（400NR）が土砂の^{たいせき}堆積で埋まり、そのあと大溝600SDが掘られ、さらにこの600SDが埋まったために、あらためて大溝200SDを^{くつさく}掘削していたことがわかりました。

この河道と2条の大溝からは、大量の土器のほかに、普通では残りにくい木製品やカゴ類などがみつかりました。木製品には、製作途中の^{くわ}鋤や^{おのえ}斧柄などの工具類があり、この大溝が生活道具の廃棄場所であるとともに、木製品製作の場でもあったことがわかりました。

また、珍しい遺物としては、ヒスイの勾玉や、赤いベンガラを塗った^{つぼ}壺・弓の破片・カゴがみつかりました。これまでの一色青海遺跡の調査では、集落の規模にくらべて遺物はやや地味な印象がありましたが、今回出土したこれらヒスイの^{せきさい}勾玉、赤彩の壺・弓・カゴなどは、まさにこの地域を代表する大型集落ならではの逸品といえましょう。こういった遺物群は、ムラの人々が集うさまざまなマツリの際において、ムラ^{おさ}長たち（首長層）の権威をしめす、きわめて重要なアイテムであったと考えられます。



国土地理院発行 清洲・津島 1:25,000 を使用
(ただし、縮尺は 1:50,000)

- | | | | | |
|------------|----------|---------|---------|---------|
| 1 一色青海遺跡 | 2 野口北出遺跡 | 3 須ヶ谷遺跡 | 4 長田遺跡 | 5 跡ノ口遺跡 |
| 6 堀之内花ノ木遺跡 | 7 琵琶戸遺跡 | 8 高町畑遺跡 | 9 大塚遺跡 | 10 柳前遺跡 |
| 11 浄土寺遺跡 | 12 流遺跡 | 13 寺脇遺跡 | 14 寺野遺跡 | |



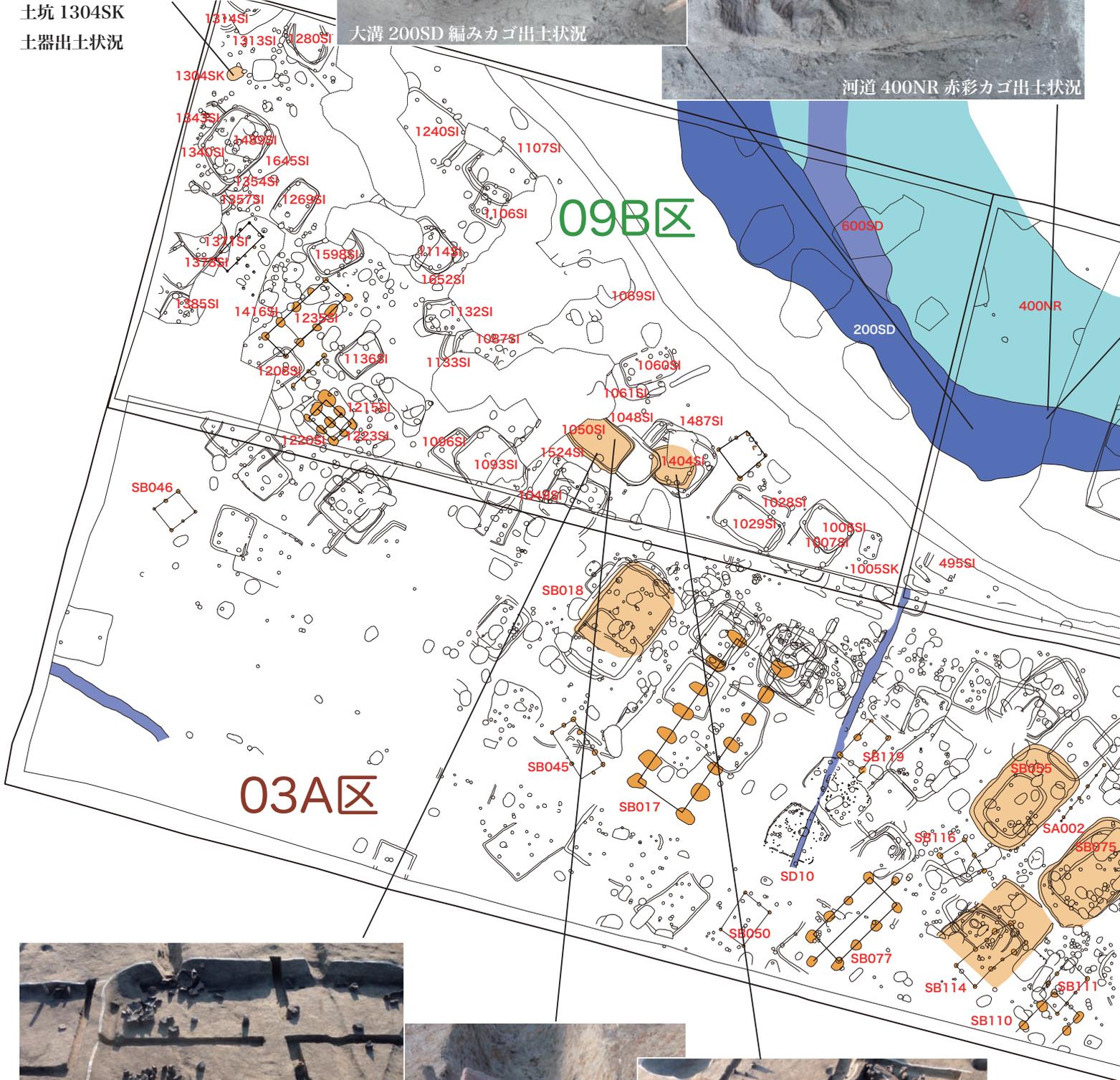
土坑 1304SK
土器出土状況



大溝 200SD 編みカゴ出土状況



河道 400NR 赤彩カゴ出土状況



竪穴住居 1050SI 土器出土状況



竪穴住居 1050SI 深鉢出土状況



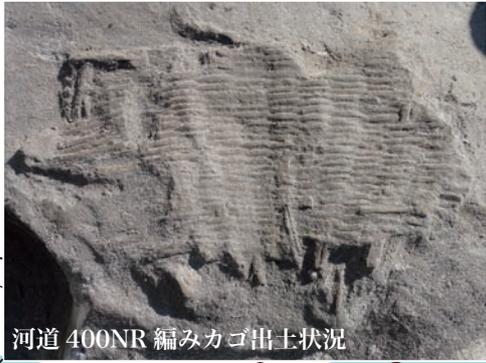
竪穴住居
1404SI
土器出土状況



大溝 200SD 不明木製品出土状況



09A 区全景 (南から)



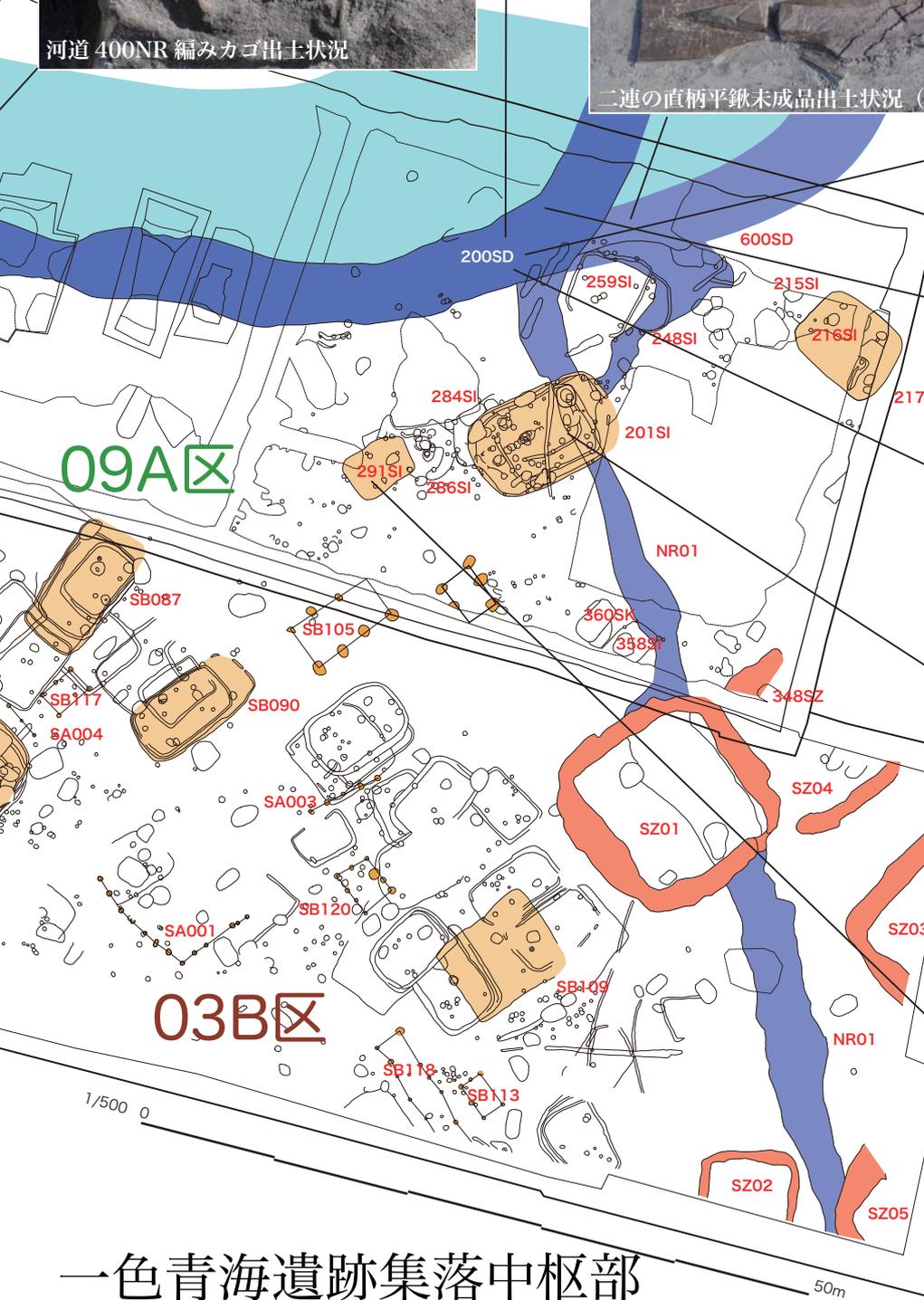
河道 400NR 編みカゴ出土状況



二連の直柄平鋤未成品出土状況 (大溝 600SD)



大溝 200SD 赤彩壺出土状況



大溝 200SD 竪杵出土状況



大溝 200SD 赤彩弓出土状況



大型竪穴住居 201SI 全景



竪穴住居 291SI 全景

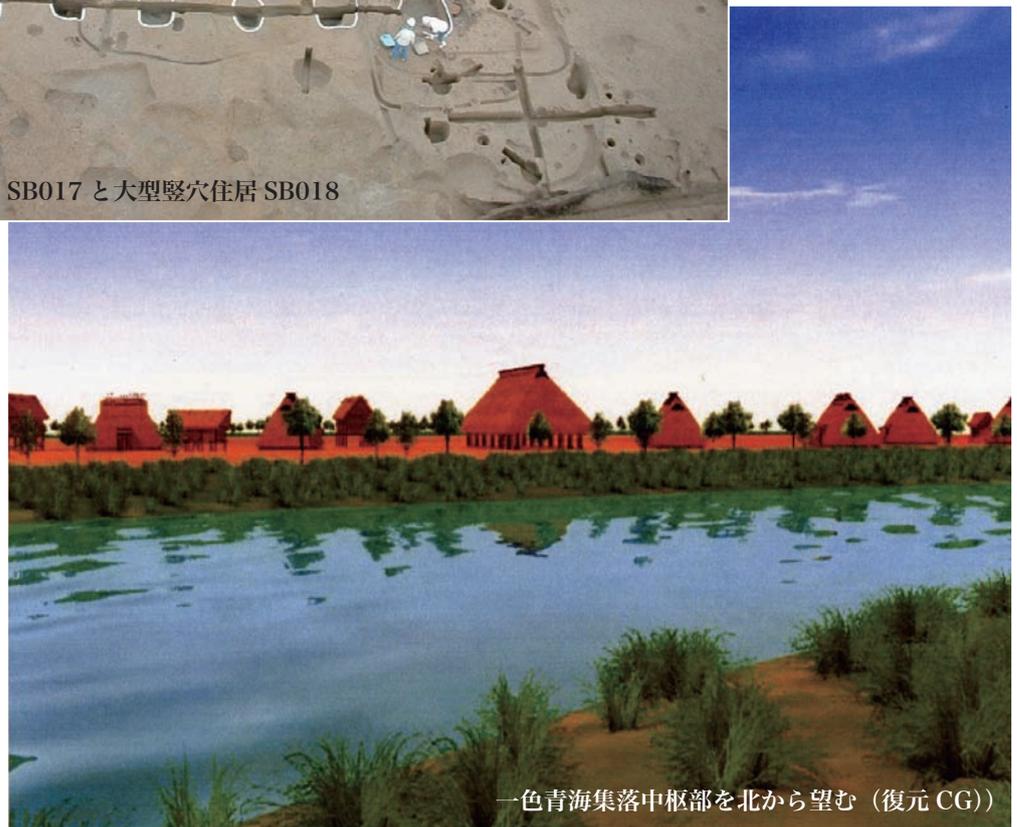
一色青海遺跡集落中枢部
(03A・B区、09A・B区) 遺構全体図 S=1:500



大型掘立柱建物 SB017 構造復元 CG

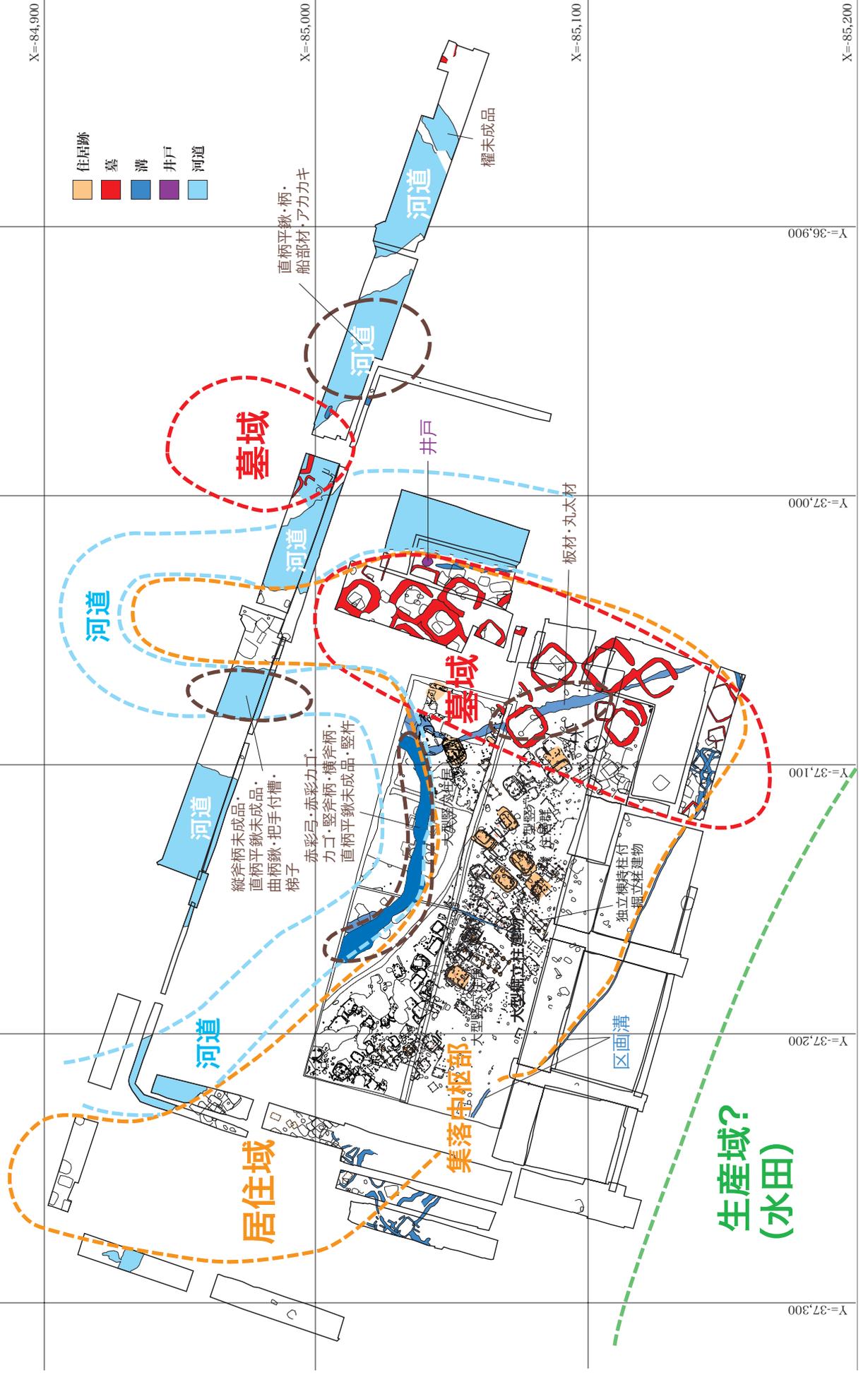


大型掘立柱建物 SB017 と大型竪穴住居 SB018



一色青海集落中枢部を北から望む (復元 CG)

弥生時代中期後葉(紀元前1世紀頃)の
一色青海集落模式図 S=1/2000



X=84,900

X=85,000

X=85,100

X=85,200

Y=36,900

Y=37,000

Y=37,100

Y=37,200

Y=37,300